会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 池永
日 時	平成28年8月25日(木曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午前 10 時 57 分
出席委員	馬場 平本 酒井 富谷 小川 奥村 福井		
理事者 出席者			
事務局	門事務局長、池永主任		
傍聴者	市民 - 名	報道関係者 - 名	議員1名(竹田)

会 議 の 概 要

1 開 議

2 案 件

(1) 病院事業について

<馬場委員長>

各委員からレポートを提出いただいた。配付しているので確認いただきたい。各委員から概略の説明を。

<各委員>

[レポートについて概略説明]

~ 10 : 30

<馬場委員長>

公立病院と民間病院の役割について、共通認識できている部分と異論がある部分がある。ただ公立病院については、地域に必要な医療で採算性等の面から民間医療機関による提供が困難な医療を提供することという点では共通した認識となっている。また、市立病院の現状、課題、委員の意見等を大別すると6点くらい検討の余地がある。医療機能（高度急性期／急性期／回復期／慢性期）診療科に関する意見、経営に関する意見、繰り入れに関する意見、人材確保に関する意見、市民への広報に関する意見、民間との役割分担に関する意見。

役割を果たすような診療を行っているかについて、また繰り入れについて、市民説明をしっかり行っているかということは共通して言われていた。そのような大まかな方向性を持ちながら、今後どのように取り組みを進めていくか。前回、アンケートやわがまちトークは時期尚早との意見もあった。

<福井委員>

今の委員長のまとめについて、私は異議なかったが、皆の考えはどうか。

<馬場委員長>

口頭で言ったので難しいかもしれない。病院の経営審議会が8月23日に行われた。その時の資料を配付したので一読いただきたい。次回の月例で今後の取り組みについて詳細を決めていってはどうか。小川委員が審議会を傍聴されたとのことだが、概略

の説明を。

<小川委員>

[経営審議会について概略説明]

<馬場委員長>

次回の月例で今後の取り組みについて詳細に検討するということが良いか。

<酒井委員>

この医療圏に必要な医療、市立病院の果たすべき役割、必要な診療科、急性期なのか回復期なのかについては、審議会の資料に書いてあるように、新改革プランの中で検討される。まず府が策定する地域医療構想を踏まえなければならない。また、市立病院はこうあるべきだという意見を委員会が出すのではなく、審議会の議論を見ていかなければならない。各委員から出た問題点も、これから検討されるようである。この委員会ですべてできていると指摘していたことが、やっと審議会での議論にあがってくる。繰入金も、どういう項目で繰り入れるのかははっきりさせようということになっている。これまでは総務省の通知どおりに行っており、その項目に対しどれだけの費用がかかっていたかも把握していなかった。電子カルテを入れたら把握すると言いながら、電子カルテを入れて1年経ってもできていなかった。そのあたりをしっかりとっていくように、決算や普段の審査の中で明らかにするような質疑を委員会で行っていくことが重要である。

先ほど委員長が6点言われたが、医療と経営、人材確保については、府の医療構想を踏まえて審議会で検討される。ただ市民理解と広報の部分については、委員会で審議会と別の動きができるのではないか。広報紙の「ききょう」も、以前から指摘されているように、どこを対象にした広報が分からない。内容を見直すように委員会で指摘したこともあるが、公立病院は宣伝ができないのでそのような中身になるとの説明であった。宣伝するべきだと言っているのではなく、地域になくはならない病院として、市の繰り入れに見合うだけの役割を果たしていることが分かるような広報に努めていただきたい。委員会としては、そういうところを指摘していけるのではないか。また市民理解については、市民から既にいろいろな声が出ているのを拾い上げ、その声に応えられるような運営をしているのかを明らかにするのが委員会の役割だと考える。今後の審査の中でもできることが十分ある。委員会の視点として、そういうことを追求していくのが大事である。

<馬場委員長>

酒井委員から主に4点あった。府の地域医療構想をしっかりと押さえて見ていくこと、経営審議会の議論の中身に注目すること、広報「ききょう」のあり方を検討すべきということ、市民から出されている意見にアンテナをはって注意深く見ていくべきということであった。それを含めて検討課題とし、9月16日の議案審査の際、一定まとめていきたい。また南丹病院組合から、南丹病院の病院名を変えるということで、委員会で説明をしたいという申し出があった。健康福祉部とともに説明に入ることになるが、南丹病院組合の出席は参考人という扱いになる。参考人として委員会への出席を要請することで良いか。

<了>

<奥村委員>

名前が変わることを聞く必要があるのか。

<馬場委員長>

南丹病院組合から要請があったものである。

<事務局長>

南丹病院組合規約の改正が議案として出てくる可能性があるので、事前に説明したいとのことである。

<福井委員>

酒井委員の意見について。市立病院の課題やあり方について各委員が意見を出したが、経営審議会が始まっており、いろいろな細かい数字が割り当てられたりして、きちんと運営されるだろうという予測のもと、審議会の議論を見ていくというのは構わない。しかし次の段階として、市民の声を聴いて反映させると言われた。例えば広報のしかたを問うと広報のしかたについての答えが返ってくるが、市立病院がどうかと尋ねたら、我々が出した意見のもっと細かいものしか出てこないのではないか。市民の声を聴いて、それを反映させるフローは。

<酒井委員>

市民の声を聴き、審議に反映させるという意味である。各委員は個別に市民から話を聴くが、委員会として集約されていない。本当にそのようなことがあったのか、いつもそのようなやり方なのかを確認するまでに至っていない。そういった声を受けて、市立病院がだめだといううわさが市民に広がる。不満だけが広がるのは良くないので、各委員が聞いた不満は根本的にどういう問題から発生しているのかを見ていかなければならない。それは市立病院が拾う声の中ではなかなかできない。市立病院とは別の活動として委員会ができることは、病院に行かない市民や、病院に声を届けられない市民の声を委員会が受け止め、声をもとに改善すべきところを見ていくことではないか。市民の声がこうだから、このように便利にしろという話ではない。審議に生かすために、皆が集めてきた個別の情報を委員会として共有し、根本的な問題は何かを見ていくことはできるのではないか。

また広報についても、市民の役に立つ病院だと分かるようにするために、委員会で意見を言っていけると考える。

また経営審議会の内容は、各委員から出た問題点を検討する形になっているが、その議論の内容、国が出した病床数の需要予測が本当なのか、また繰り入れの考え方もしっかり見ていかないといけない。本当にそれに対して一般会計が繰り入れするのが適切かどうかについては、審議会が決めたとおりで良いのかというと、そうではない。審議会の話のとおりで良いというのではなく、そこを見ていきたい。そういうところを審議の中で見ていければと考える。

<馬場委員長>

完璧な調査を行うのではなく、各委員が市民から聴いた内容について、委員会として集約していくということが良いか。

<福井委員>

アンケートやインタビューに繋げていくのではないのか。

<酒井委員>

今そのようなアンケートをるところまでは至っていない。もし、この先々やるのであれば、意見を受け止める場所として、委員会の存在を伝えていけば良い。この先、市立病院に対しての意見を市民に一斉に聴くタイミングがあればだが、ないとしても、受け止めた意見を調査することは委員会としてできるのではないか。

3 その他

<平本副委員長>

南丹病院組合の参考人の件であるが、説明は9月16日の午後3時頃で調整している。議案審査と決算分科会終了後に説明を受けることになると考えられる。ただ、午後1時30分から京丹波町議会でも同様に説明される予定であり、その後、本市に向かわれるので、場合によっては時間が前後する可能性もあるので、ご了承ください。

<馬場委員長>

9月16日は午後にまたがるので、予定いただきたい。

散会 ~ 10:57